

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
理事長 松山 幸弘

- I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。
- a. 特に学術的に重要と考えられるもの
- ① 高齢化社会にむけての取り組み
高齢化社会に向けて脊椎脊髄病学の社会における必要度はさらに高まっている。より低侵襲で安全性が高く、効果的な標準的治療を確立していく必要があり、その学問的基盤となる学会と自負している。自由な学術的活動に加えて、特に近年では学会主導による多施設研究を積極的に行い、現状の問題点の抽出と解決に取り組んでいる。
- ② 症例レジストリーシステムの確立
脊椎脊髄疾患に対する治療・手術療法は日進月歩であり、新しい術式が常に導入されている。しかしながら、症例は分散され、それらに対する効果、安全性、経済性を客観的にグローバルに評価されているとは言いがたい現状がある。新規治療法を含め、治療法の適切な評価を可能にするべく、症例レジストリーシステムを確立し全症例登録による運用を開始する。
- b. 当該領域における国際的な役割
国際交流と日本からの発信を積極的に行ってきた。アメリカ、ヨーロッパ、アジアの国々の脊椎関連学会と連携をとり、トラベリングフェローの交流をはじめとし、友好を深めてきた。また、学術集会では英語によるセッションも積極的に設け、海外の医師の参加を促している。学術面では、特に頸椎疾患に対する知見と治療は歴史的に世界をリードし、多くの発信がなされてきた。今後は、先述の学会主導によるオールジャパンの研究成果の発信と若手医師のさらなる交流を積極的におこなっていく。
- c. 活動からもたらされる社会的な意義
脊椎脊髄病治療の主体をなす学会として、良質な医療を国民に提供する責務があり、医療安全、新規技術の評価、保険診療の改善要望、と多岐にわたる活動を行い、これらはHPを通じて広く一般に情報を公開している。

d. 学会運営上留意している点

一般社団法人として広く会員の意見を集めて方針を決定すること、適切な財務管理をおこなうこと、これらを念頭に運営を行っている。また、多彩な背景を持つ会員のニーズに応えるべく、多様性を重視した運営に心掛けている。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

多くの会員が所属する基本領域学会の日本整形外科学会とは、シンポジウム案の提示や各種の企画を通じて連携を進めている。また現在、基本領域に加えてサブスペシャリティー領域の専門医制度の確立が求められている。日本脊椎脊髄病学会では早期から日本脳神経外科学会を母体とする日本脊髄外科学会と共同し、脊椎脊髄病専門医の制定と認定に取り組んでいる。共通テキストを用いた試験を行い、すでに 1287 名を両学会認定の脊椎脊髄病専門医としており、現在専門医機構にサブスペシャリティー領域としての認定を申請している。早期に認定され、脊椎脊髄病専門医が機構認定サブスペシャリティー領域専門医となることが望まれる。